



ヒデト次長

地図記号を使うと簡単にたくさんの情報を記録することができる。歩数を測る時は、いつも同じ間隔で歩くことが大切である。たくさんハイキングをしてつかもう。野帳をつけるときは歩数を測る者、角度を測る者、時間を管理する者、記録をする者など分担すると良い。

①は橋である。両脇は川である。矢印は川の流れてそれぞれの方位角も記入する。

道の左右の様子、針葉樹林や広葉樹林、田んぼや畑などは地図記号を左右の事物に記入する。

②は道の脇にある建物を記入している。この場合は小中学校である。観察事項に学校名を書いておくといい。この場合は小学校で右に曲がったことになる。

進路左側の地物	方位角 歩数	進路右側の地物	時刻	記事・観察事項
300° ② 文	14° 205		11:45	
300° 文	300° 34	Λ Λ		
260° ①	300° 168	← 80°	11:30	
No.2				

野帳を下から上へと書いてその紙の一番上にいけば、次の新しい紙の一番下から続きを書いておく。ルーズリーフ状の紙の場合は順番がバラバラになる場合があるので紙の下や上にナンバーを書いておくといい(①)。

気づいたことは右側の観察事項にたくさん記入しておく。上り坂開始や下り開始など記入しておくことさらに分かりやすくなる。

休憩は開始の時間から出発の時間を記載する(②)。

進路左側の地物	方位角 歩数	進路右側の地物	時刻	記事・観察事項
65° 230		Λ Λ	12:50	出発
		Λ Λ	12:15	休憩(昼食) ②
65° 185	3M (山道)	Λ Λ	12:00	山道に入る 左側にナシ畑
14° 75		Λ Λ	11:50	①
No.3				

●野帳の読み方

野帳をつけるよりも読むほうが、比較的是やくできるようになる。そして野帳が読めるようになることで、野帳をつけることが身につくようになる。ここでは野帳の読み方を伝えるので、身に付けられるように理解してほしい。野帳の読み方は地図の読み方と似ているのですぐにはわかることだろう。

野帳の読み方は、野帳の中央の2本の線の間(①)が、自分の歩いている道とみる。右に曲がっても左に曲がっても2本の線の間を歩いているということだ。

つまり、野帳ではまっすぐの線だが実際はくねくねと曲がっていることになる。その角度が記入されている方位角で、その下の数字が歩数となる。野帳は下から上へと書いていくのでスタート点から角度と歩数をたどっていくと野帳通りの地点行けるということだ。

進路左側の地物	方位角 歩数	進路右側の地物	時刻	記事・観察事項
300° 文	65° 185	3M (山道)	12:00	山道に入る 左側にナシ畑
300° 文	14° 205	Λ Λ	11:45	
315° 185	360° 90°	文	11:20	昭和小学校
45° 117	①	6M (アスファルト)	11:10	
360° スタート			11:00	No.1

●バックベアリング(来た道に戻る方法)

野帳をつけておくと、道に迷ってしまったときに野帳をたよりにもとの場所まで戻ることができる。そのときにつかう技がバックベアリングである。野帳をもとに来た道を正しく引き返すには、野帳の記入している上から下へと読み戻す(②から①へと)のである。

引き返す地点が②であったとすると、この地点の方位角は65°である。この方位角65°を測るときに本来は北を示す磁針にN(北)を合わせるが、これをS(南)をあわせるのである。

そして下段の歩数、185歩を戻るのである。そして、再度14°をNとSを逆さにして測り、下段の205歩を戻るのである。これをくりかえして自分の分かる地点まで戻ることによって遭難を防ぐことができるのである。

バックベアリングの練習として野帳を渡してゴールからスタートへ正しく戻るゲームをすることを勧める。

●略地図

自分たちで地図を作ると聞くと、なんだかひどくむずかしい作業に取り組むような気がするが、野帳の読み方、つけかたをマスターすると割と簡単に略地図に起こすことができるようになる。野帳の精度が高ければ高いほど、正確な地図を起こすことができるが、まずは略地図でよいので自分たちが歩いたところを地図に起こしてみよう。地図の起こし方が理解できれば自分たちのサイトや活動場所の地図を作ったりいろいろなと技能を活用してみよう。

右の野帳をもとに地図をおこしてみよう。まずは①の地点から作業を進めよう。

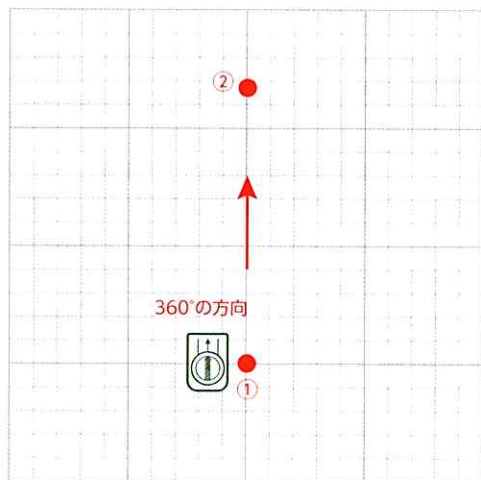
方眼紙を用意する。方眼のサイズは5mm方眼程度が作業がしやすい。

①の地点を方眼紙の中央あたりに点を記入する。印は赤色など目立つ色の方が作業を進めやすい。

最初の印がつけば、野帳に記入している方位角を測り、次の地点までの歩数を確認する。

ここでは360°の方向で117歩である。

進路左側の地物	方位角 歩数	進路右側の地物	時刻	記事・観察事項
○ ○	(2) 65° 185	3M (山道) △	12:00	山道に入る 左側にナシ畑
300° 文	14° 205	△ △	11:45	
	315° 185	360° 田	11:20	昭和小学校
	45° 117	90° 田	11:10	
	(1) 360° スタート	6M (アスファルト)	11:00	



117歩の場合、例えば10歩で1マスと決めれば次の地点は360°方向に(北なので上になる)11マスと0.7に次の印をつける。この間隔は20歩で1マスでも良いし、1歩1マスでも良い。歩数が多いと縮尺の大きい地図になるし少ないと縮尺の小さい地図になる。

そして、最初の①の点と②の点を線で結ぶのである。

方位角は正確にコンパスで測り、紙の上は北とする。

これは略地図なので磁北などは考慮しなくて方位角通りに作成しよう。

①の点と②の地点に線を引いた後は、さらに同じように次の点を方位角を測って印をつける。

次の地点は45°の方向に185歩である。45°をコンパスで測って18.5マスに印をつける。そして前の点と線でつなぐのである。

この地点の野帳を見てみよう。2線の右側にななめ上とななめ下に線が引いてあり、360°と90°と方位角が記入がある。このような所は分かれ道(交差点など)になっているので、それぞれの方位角を測って線を書く。

そして、さらに次の方位角を測って記入していくのである。

野帳の観察記録を確認しながら道の両脇の事物を地図記号で記入していこう。

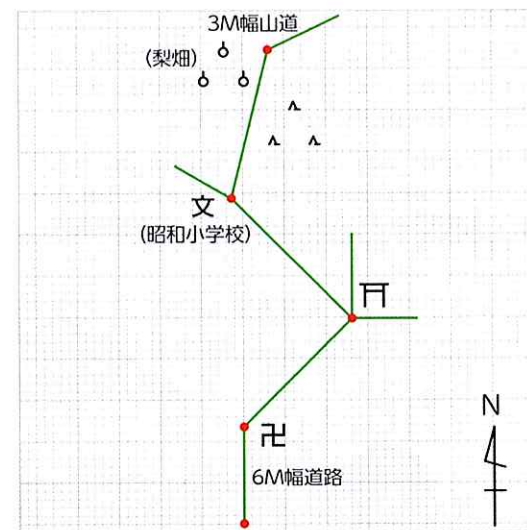
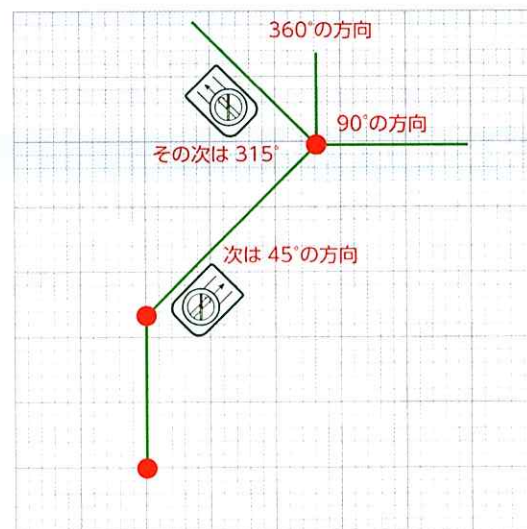
方眼紙の端まで行けば、次の方眼紙を付け足してどんどん書いていこう。

地図を書くときの注意事項としては上が北になるように記入していくことだが、実際に北の方向に紙の上を合わせないと、それぞれの方角が合わないことになる。

歩測をしている歩数が複歩で1mであれば全体の距離も割り出すことができるので正確な縮尺も掲示することができる。



ヒデト次長



理屈さえ分かれば、難しいことはない。
きみも地図おこしに挑戦していこう。

